

ア ウ ト リ チ

通信



第 27 号

2016 年 3 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための コンサート・シリーズ

クリスマス・コンサート

十二月十二日(土)、講堂において「子どものためのクリスマス・コンサート」音楽をイメージする「子ども」(子どもたちのためのコンサート・シリーズ第四十三回)を開催しました(十一時と十五時半の二回公演、

来場者数は
第一部五百
四十名、第二
部二百二十
三名の合計



七百六十三名)。

出演は大浦春菜(ピアノ)と西脇恭子(ピアノ)のピアノ・デュオを

中心に、菊本恭子(ヴァイオリン)、土井茉莉(ヴィオラ)、黒田育世(チェロ)、蔭山晶子(クラリネット)、今中ゆり(お話)の七名で、卒業生と非常勤講師の皆さんです。

このコンサートは、音楽から広がる豊かなイメージの世界を子どもたちに味わってほしいという願いでプログラムが構成されました。

オープニングはアンダーソン

作曲の(そりすべり)。季節にぴ

つたりの曲を、全員のアンサンブル(吉田梨絵編曲)で楽しく賑やかに演奏して開幕を飾りました。



まずは楽器の紹介です。今日のコンサートに登場する楽器のそれぞれについて、音が出る仕組みや魅力について

て短く話をした後、ヴァイオリンはモンテイの(チャールダーシュ)より、ヴィオラはシューベルトの(アル



ペジョーネ・ソナタ)イ短調、D.六二一の第一楽章より、チェロはシヨスタコーヴィチの(チェロ・ソナタ)作品四十の第二楽章より、クラリネットはポンド民謡の(クラリネット・ポルカ)を演奏して、実際の響きを聴いてもらいました。



次に、モーツァルトの(キラキラ星変奏曲)(吉田梨絵編曲)をヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、クラリネットとピアノで表情豊かに演奏して、同じメロディでもキラキラ輝いたりしよんぼりしたり、いろんな感じになることを分りやすく示しました。



続いて、フランス民謡の(キラキラ星)を会場の子どもたちと一緒に歌いましたが、その際、



数人の子どもたちを舞台上に上げて、トライアングルや鈴で演奏に参加してもらいました。

によるクリスマス・メドレー（吉田梨絵編曲）で、〈赤鼻のトナカイ〉と〈ジングル・ベル〉を会場の子どもたちと一緒に歌いました。

「わかりやすい曲ばかりで、小さな子が音楽や楽器を身近に感じることができて楽しめる内容だった」「曲のアレンジなどごくおしゃれですばらしかった」

時代になったかと感無量でした。今後も息長くこのコンサートを続けていくことができればと思います。

（アウトリーチ・センター長

津上智実）

いよいよ今日のメインの曲、動物たちがたくさん出てくるサニールサーンズの《動物の謝肉祭》です。今回はナレーション入りの二台ピアノ版での演奏で、〈序奏とライオンの行進〉から〈終曲〉のファイナルまで、ピアノ

と二人の熱演が繰り広げられました。〈森の奥に住むカッ



コウ〉ではクラリネットも演奏に加わりました。

最後に、クリスマスがイエス・キリストの誕生日であることをお話ししてから、演奏者全員

によるクリスマス・メドレー（吉田梨絵編曲）で、〈赤鼻のトナカイ〉と〈ジングル・ベル〉を会場の子どもたちと一緒に歌いました。

「わかりやすい曲ばかりで、小さな子が音楽や楽器を身近に感じることができて楽しめる内容だった」

「選曲もよかった。演出・解説も工夫されていた」といった意見が多数寄せられました。一方で、「曲が少し長過ぎる」「子ども向けにしてはむずかしい」といった批判もあり、バランスを取っていくことのむずかしさを改めて感じました。



十月十五日(木) 十五時から、神戸市立医療センター中央市民病院(神戸市立中央区港島町四一六)一階講堂にてオータムコンサート(四十分)を行いました(フルート・喜多望有、岡亜梨沙、ヴァイオリン・尾崎文子、田中奈穂子、ソプラノ・迎奈月、ピアノ・藤井友理)。

今回は、季節を感じられる身近な秋の曲からクラシックの曲まで、皆様と一緒に楽しめる音楽をつくりたいという思いで取り組みました。

オープニングでは、チャイコフスキー作曲《くるみ



割り人形》より《葦笛の踊り》をフルート二本、ピアノで演奏しました。次に、マルグリット・モノー作曲の《愛の讃歌》をピアノ伴奏で独唱し、しつとりとしたメロディに耳を傾けて頂きました。

続いて、ボツケリーニ作曲《アレグロ》をヴァイオリン二本で演奏しました。演奏の前にヴァイオリンの弦は昔は羊の腸で作られていたことや、弓は馬のしっぽの毛で作られていることを紹介すると、興味深そうに話を聞いて下さるお客様の姿も見られました。ピアノ伴奏なしのヴァイオリン・デュオは珍しい編成であり、二本の軽やかな掛け合いのクラシック曲を楽しんで頂きました。



次に、ピアノ演奏の《ラジオ体操》に合わせて、皆さんと一緒に深呼吸や手を挙げたり伸ばしたり、足踏みなどの軽い体操を行いました。身体をほぐして歌う準備ができたところで、秋の曲として山田耕筰作曲《赤とんぼ》、中田喜直作曲《ちいさい秋みつけた》、岡野貞一作曲《紅葉》の三曲を皆さんと一緒に歌い、秋を感じて頂きました。

その後は、モンティ作曲《チャールダーシュ》をヴァイオリン独奏で、続いてグリーク作曲《ペールギュント》より《朝》をフルート二本とピアノ伴奏で演奏しました。演奏の前にインタビュー形式で楽器の紹介をして、金製と銀製のフルートの音色の違いを感じながら聴いて頂きました。

最後に、いずみたく作曲《見上げてごらん夜の星を》と岡野貞一作曲《ふるさと》を会場の

皆さんと一緒に歌いました。フルートとヴァイオリンも加わって、華やかな演奏になりました。アンコールを頂きましたので、お客様のリクエストに答えて《赤とんぼ》をもう一度演奏し、皆さんにも一緒に歌って頂いてコンサート締めくくりとしました。

演奏中はお客様の笑顔がこちらで見られ、終演後も「ありがとうございました」という言葉を多くの方から頂いて、私たちにとても心温まる時間となりました。自然と笑顔になる音楽の力を改めて実感することができて、とてもうれしく思いました。

(喜多望有・記)



姫路しらさぎ特別支援学校

十月二十三日（金）、兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校（姫路市苦編六八八―五八）の音楽室で、中学一年生の一クラスと二・三年生合同の一クラス、計二クラスを対象にアウトリーチ実習（各四十分）を行いました（ピアノ・尾形佳那恵、ヴァイオリン・尾崎文子、マリンバ・山田りさ、声楽・神田幹子）。

四十分プログラムの前半は、それぞれの楽器の特徴と音色を感じてもらうためにソロ中心とし、後半は一年生はアクティビティ、二・三年生は合奏を行なうという構成にしました。



まずは、出演者全員で岡野貞一作曲の〈紅葉〉を演奏しました。次に、マリン



バでミーチャム作曲（アメリカン・パトロール）を、そして四本バチでハーバーク作曲（虹の彼方に）を演奏しました。四本のバチの華麗なバチ捌きに生徒たちは目が釘付けでした。

次に、ヴァイオリン独奏でエ



リ作曲（愛の挨拶）、ソプラノ独唱でヴェルディの歌劇《シチリア島の夕べの祈り》より〈ありがたい、愛しい友よ〉を演奏しました。ここでスペシャルゲストとして音楽の山本倫子先生が登場し、デイズニー映画《美女と野獣》より〈美女と野獣〉を私（神田）との二重唱で歌いました。青いドレス姿の先生に、



生徒たちは大喜び！でも演奏が始まると、静かにじっと耳を傾けていました。次は、ピアノ独奏でモーツァルト作曲（トルコ行進曲）を演奏しました。ピアノから多彩な音色が鳴り出すと興味深そうに聞いてくれました。

授業の後半では、一年生はアクティビティとして、二・三年生は合同合奏として、ホルスト作曲の組曲《惑星》より〈木星〉を私たち学生と一緒に演奏しました。どの生徒も演奏することの楽しさや喜びに溢れていて、とても幸せそうに見えました。

最後に、橋本祥路作曲（夢の世界を）と一緒に歌い、コンサートを締めくくりました。

音楽の田村明子先生から「生

徒にとって音楽は伝達のツールです」というお話を聞いて、私たちはこの四十分間、生徒達と音楽で会話していたのだと思って感動しました。これからも多くの人と会話できるように音楽を演奏していきたいと思えます。（神田幹子・記）



十月三十日（金）十四時から、兵庫中央病院（兵庫県三田市大原一三四）にて「秋のスペシヤル・コンサート」(ボランティア・コンサート)（四十五分）を行いました。（オーボエ・樋口成香、ヴァイオリン・尾崎文子、フルート・田中佑奈、ピアノ・和田悠加、尾形佳那恵、声楽・十合翔子）



曲（カノン）（オーボエ・フルート・ヴァイオリン・ピアノ）を演奏して、違う楽器が同じメロディを順に演奏することで楽器

の音の違いを聴いて頂いた後、ソロの曲目を続けて演奏しました。

オーボエの楽器紹介をした後、大島ミチル作曲（風笛）を演奏し、オーボエの穏やかな音色に耳を傾けてもらいました。

次は同じく木管楽器のフルートの女（メヌエット）を紹介し、ビゼー作曲（アルルの女）より（メヌエット）をフルート独奏で演奏しました。



雰囲気を変えて、次は独唱で久石譲作曲（スタンド・アローン）を歌いました。この歌は司馬遼太郎原作のドラマの主題歌として作られた曲で、人が凜として立つ姿を歌っています。聴きながら涙を流している患者さんいらっしゃいました。

ここで歌う前の準備体操として、ラジオ体操の曲に合わせて

体操をしたところ、皆さんが楽しそうに参加して下さいました。

その後、山田耕筰の（赤とんぼ）、中田喜直の（小さい秋みつけた）と岡野貞一の（紅葉）を三曲続けて一緒に歌い、秋を感じて頂きました。

続いて、ヴァイオリンでモンティ作曲（チャールダーシュ）を演奏。アップテンポの曲なので、リズムに乗って体を揺らして下さる方もありました。室内

楽も紹介したかったので、ドビュッシー作曲（小組曲）より第四曲（バレエ）をオーボエ、フルート、ピアノのトリオで演奏し、軽やかな掛け合いを聴いて頂きました。



次には、たく作曲の（見上げてごらん夜の星を）と岡野貞一の（ふるさと）を皆さん

と一緒に歌い、コンサートが終了しました。とても名残惜しうにして頂きました。アンコールを頂いたので、皆さんと共に歌った曲の中から一曲を再度演奏しました。



終演後、お見送りしていると、楽器に

近寄って興味深そうに質問をして下さった方もありました。スレットチャーの方が多かったのですが、皆さん楽しそうに演奏を聴いたり歌ったりして下さいました。たくさん拍手や楽しそうな笑顔を見ることができてとてもうれしかったです。このような機会を得ることができて幸せでした。

（尾崎文子・記）

西宮市立鳴尾北幼稚園

十一月十三日（金）十三時から西宮市立鳴尾北幼稚園（西宮市花園町十一・二十、園長・河崎祥子先生）の遊戯室にて園児を対象とする「オータム・コンサート」（四十分）を行いました（声楽・神田幹子、ピアノ・池上夏帆、上田仁美、フルート・岡亜梨沙、オーボエ・樋口成香、パーカッション・山田りさ）。



子どもたちが馴染みやすいように動物をテーマにし、楽器の特性やソロとアンサンブルを知ってもらえるようにプログラムを組みました。

まずはルロイ・アンダーソン作曲の〈ワルツィング・キャット〉で子どもたちの心を惹きつけました。

続いてフルート独奏でエルガー作曲〈愛のあいさつ〉、独唱で木下牧子作曲〈ロマンチストの豚〉、



声の仕組みを分かりやすく説明したところ、興味深そうに聴いてくれていました。

アクティビティとして童謡の〈おべんどうの歌〉（振りつき）をみんなで歌って遊び、その後最初に演奏した〈ワルツィング・キャット〉

に合わせて皆で色々な猫の真似をしました。皆とても楽しそうに音楽に合わせて猫の真似をしてくれたので、うれしかったです。



後半にはアンサンブルを二曲組み込みました。一曲目はドビュッシー作曲〈小組曲〉より第四曲〈バレエ〉を



フルート、オーボエ、ピアノで演奏してアンサンブルのおもしろさを伝えました。二曲目はパーカッションも加わって、アンダーソン作曲〈シンコペイテイド・クロック〉を演奏しました。

最後は小林秀雄作曲〈真つ赤な秋〉、梁田貞作曲〈どんぐりころころ〉、いずみたく作曲〈手のひらを太陽に〉の三曲をメドレーで歌い、鳴尾北幼稚園の園歌を皆で歌って終わりました。子どもたちは大きな声で元気よく歌ってくれました。

今回が鳴尾北幼稚園での初めてのアウトリーチだったので不安もありましたが、子どもたちの素直な反応、笑顔、元気に私たち出演者がたくさんパワーをもらいました。音楽を楽しんでくれていたのが間近で感じられて、とてもうれしく思います。

（樋口成香・記）



野木病院

十一月二十一日(土) 十三時
四十五分から社団法人佳生会野
木病院(兵庫県明石市魚住町長
坂寺千三ー)で「オータム・
コンサート」(四十五分間)を行
いました。(ソプラノ・岡山真理
子、フルート・喜多望有、オー
ボエ・樋口成香、ピアノ・和田
悠加、丹野桃子)



今回は秋と一緒に感じてほし
い、クラシッ
クも身近に感
じてほしいと
いう思いで、
たくさんの秋
の曲や耳にす
ることの多い
クラシック曲を盛り込みました。
小林秀雄作曲〈まつかな秋〉
を出演者全員で演奏して開幕と
しました。次にマスカーニ作曲
〈アヴェ・マリア〉(ソプラノ、

ピアノ)を演奏して、聖母マリ
アへの祈りを込めた歌声をお届
けしました。続いてドビュッシ
ー作曲〈亜麻色
の髪の乙女〉(ピ
アノ)を演奏し
たところ、切な
げなメロディに
皆さんが耳を傾
けてくれているのが伝わってき
ました。チャイコフスキー作曲



《花のワルツ》(ピアノ連弾)で
は、連弾の楽しさを伝えるため、
奏者二人で顔を見合わせたり、
手や体の動きを合わせたりする
工夫をしました。

ここでオードウェイ作曲〈旅
愁〉(ピアノ)をBGMに皆さん
と軽い体操をしました。紅葉豊
かな山にしていると想像してもらい、
深呼吸や「やっほー」と山へ呼
びかけたりしてもらいました。
皆さんが楽しそうに参加してく

れたので、うれ
しかったです。
身体がほぐれ
たところで山
田耕筈作曲〈赤
とんぼ〉、中田
喜直作曲〈ちい
さい秋みつけ
た〉、岡野貞一



作曲〈紅葉〉の秋の歌三曲を皆
さんと一緒に歌いました。

その後はサン＝サーンス作曲
《動物の謝肉祭》より〈白鳥〉(フ
ルート、ピアノ)と大島ミチル
作曲〈風笛〉(オーボエ、ピアノ)
を演奏しました。間近で見るこ



との少ないフ
ルート、オーボ
エの楽器紹介
も行いました。
最後は、いず

みたく作曲〈見上げてごらん夜
の星を〉と岡野貞一作曲〈ふる
さと〉を皆さんと一緒に歌いま



した。
皆さん楽しそうに聴いたり歌
ったりしてくれて、私たちも自
然に笑顔になりました。コンサ
ートに関わって下さったすべて
の方々に感謝します。

(丹野桃子・記)

雲雀丘学園小学校

十二月八日（火）、雲雀丘学園小学校（宝塚市雲雀丘四一二一）の音楽室で、四年生の四クラスを対象としたアウトリーチ実習（各四十五分）を行いました（フルート・岡亜梨沙、喜多望有、田中佑奈、藤森友香、ピアノ・尾形佳那恵、丹野桃子）。

「聴いて吹いて感じよう！フルートの魅力」というテーマで、フルートのおもしろさを身近に感じてもらうことを目的として、三十分で演奏を聴いてもらい、十五分で楽器体験を行うプログラムを組みました。



まず、チャイコフスキーのバレエ《くるみ割り人形》より《葦笛の踊り》（フルート二

重奏とピアノ）を演奏し、フルートの音の出し方など仕組みを説明しました。サン＝サーンスの《動物の謝肉祭》より《白鳥》（フルートとピアノ）に続いて、金製と銀製のフルートの音色の違いを聴き比べてもらった上で、フルート二重奏でドビュッシーの小組曲より第四曲《バレエ》を演奏しました。



次に、クリスマス・ソングを三曲、《ジングル・ベル》と《ウインターワンダーランド》と《サンタが街にやってくる》を見ながら一緒に歌いました。最後に、フルート四重奏で二曲を演奏しました。一曲目は、フルートの仲間のピッコロ、アルト・フルート、バス・フルートを紹介します、これら四つの楽器によるモ

ーツアルトの《きらきら星変奏曲》です。二曲目は、タンギングや曲中に何度も出てくるメロディを紹介して、モーツアルトのオペラ《魔笛》より《序曲》を演奏しました。

後半の楽器体験では、クラスを半分に分けて、フルートを吹くグループと、フルートの歴史について学ぶグループとし、写真を使いながら説明をしたり、吹かずに待っている児童が飽きないように工夫しました。また、両方体験してもらえようように時間内で交代しました。



どのクラスも反応がよく、歌を口ずさんでくれる児童、耳を澄まして聴いてくれる児童など、それぞれの楽しみ方で聴いてくれました。楽器体験でも、吹き終



えた児童が喜んで笑顔で帰っていく姿は、私たちにもうれしく、印象的でした。
（田中佑奈・記）



子どものための 音楽作りワークショップ

九月二十七日（日）十三時から十七時まで、第六回「音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」を本学音楽館ホールで開催しました（参加は学生十五名、学外者一名、子ども二十一名）。これは英国ギルドホール音楽院で培われて来たクリエイティブ・ミュージックの優れたプログラムに学ぶ形で二〇〇七年にスタートしたもので、今回が六回目です。



同校リーダーシップ修士課程を修了後、世界各地で活躍する音楽家二名（アメリカ人のチェロ奏者ナターシヤ・ジエラジンスキとイギリス



人のフルート奏者デッタ・ダンフォード）を日本に招聘し（本

学卒業生で同課程修了の東瑛子もリーダーとして参加）、九月二十四日から四日間、学生対象の「音楽作りワー

クショップ特別研修」を行い、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちの参加を得て実施しました。



この研修は「三大学（本学音楽学部、東京音楽大学、昭和音楽大学）連携」に発するプロジェクトの一環で、誰もが持つていくクリエイティブな力を音楽によって引き出し、共に音楽を生み出していくために必要な視点と方法を学んで実践力を身につけることを目的としています。

当日は中秋

の名月だったので、わらべ歌の（へうさぎ）

を素材の一つとして、弦・管・打を中心とする三グループに分かれて、



学生と子どもたちがアイデアを出し合って自分たちのフレーズやリズムを作り上げていきました。それらを組み合わせると「月と太陽の一日」という作品として、夕方、保護者の前で十五分弱の作品発表を行いました。最後のうさぎ踊りでは、保護者の皆



さんも巻き込んで大きな踊りの輪ができました。その後、子どもと保護者と学生のディスカッション、続

いて学生とリーダーの反省会を行ない、多くの学びを得ることができました。受講生からは「参加者で意見を出し合い一つの作品を作り上げるのが楽しかった。他人の考えを聞くことで、一人様々な視点で物事を考えていることに改めて気づかされ、また各人の意見が合わさり、新しいものを作り上げていく空間がおもしろかった」といった声が寄せられました。

大学院文学研究科通訳コースの院生が逐次通訳でサポートしてくれたことを記して感謝します。（津上智実・記）



履修生紹介

四年生（十三期生十名）からの

メッセージ

樋口 成香（オーボエ）



ずっと履修し
たかったアウト
リーチの授業は
思っていたより

も大変で、授業以外での時間もたくさん取られました。その時間は仲間を知り、相手のことを考え、コンサートをよりよいものにしようと一生懸命に音楽と向き合う時間だったように思います。お客さんの表情を間近で見ることができ、温かい気持ちになります。アウトリーチは私を音楽的にも人間的にも成長させてくれました。大変ですが、それ以上に得るものが多い授業です。

神田 幹子（声楽）



アウトリーチ
を履修し感じた
ことは、音楽は言
語であるという

ことです。特別支援学校での実習では、音楽は生徒にとって言語であるという話を聞き、実習に臨み

ました。演奏を終えるたび、生徒は歓声や拍手で応えてくれました。演奏をしながら会話をしているような、貴重な体験をしました。これからの演奏でも、「聴いてもらう」ではなく、会話のように演奏できるようにしたいと思います。

喜多 望有（フルート）



アウトリーチ
実習を通して、
音楽の持つ力を
改めて実感する

と同時に、私に何ができるのか、何を伝えたいのか、と音楽に対して向き合うことができた一年でした。ひとつの実習に向けて仲間と何度も意見を出し合い、練習を重ねて臨むことで、実習を終えるたびに達成感やお互いの成長も感じることができました。何よりも聴いて下さる方々のたくさん笑顔を見ることができ、演奏しているといつも温かい気持ちになりました。様々な経験ができる貴重な授業なので、ぜひ皆さんも履修してみてください。

尾形 佳那恵（ピアノ）



アウトリー
チの実習を通
して、本番を重
ねる度に、自分

の自信にも繋がるものとなりました。コンサートを一から企画する大変さや、幾多の練習やリハーサルを重ねて本番に臨むという経験は、自分自身の音楽との向き合い方を考えさせられる機会にもなりました。

何より、演奏を聴いて下さった方の笑顔は、これからの音楽活動の原動力になっています。

大変なこともたくさんありますが、この授業でしかできないことをぜひ経験してほしいと思います。

岡 亜梨沙（フルート）



私は、アウトリー
チ実習を通して「相
手の立場に立ち考
えることの大切さ」
を学びました。演奏

する曲だけでなく、楽器について、また歴史について・・・伝えたいことをいかに簡潔に、楽しく伝えるか。それは難しくもあり、勉強になりました。これから社会に出ていく中で、私自身がどのよう

に音楽と関わり、社会がどんな音楽を求めているのかを考えながら、アウトリーチの可能性を広げていきたいらと思います。

尾崎 文子（ヴァイオリン）



私は昔から病院
演奏をすることが
多かったのですが、
あまり特別なこと

だとは思っていませんでした。しかしこの学校でアウトリーチという言葉を知り、発表会などの演奏とは求めていることが違うのだと気づきました。自分の満足感を得るためではない、人を喜ばせる演奏をする。アウトリーチでは演奏はもちろん、司会も大事です。この授業ではそんな細かいところまで気付けてもらいました。

田中 佑奈（フルート）



実習先の対象者
の立場になり、プ
ログラムを一から
考え、仲間で見
出し合い、何度

も試行錯誤を重ねて音楽を作っていく過程は大変なこともありましたが、実習先の聴衆の笑顔や掛け声に、それ以上の



喜びを感じることができました。アウトリーチは音楽が持つ力の大きさや可能性を感じることで、今後どのようにして社会の中で音楽を発信していくのかを学べる授業で、数々のかけがえのない貴重な経験ができました。

丹野 桃子 (ピアノ)



二回生の頃からアウトリーチのコンサートにスタッフとして関わり

私も絶対アウトリーチの授業を履修すると決めていました。四回生になり自分がコンサートを企画する側になると、考えなければいけないことの多さに驚きましたが、自分達が届ける音楽の時間を楽しんで下さる方々を見る度、温かい気持ちでいっぱいになりました。何を伝えたいのか、ということもいつも胸に、これからも音楽に関わっていききたいと強く思います。

和田 悠加 (ピアノ)



幼稚園や病院、何度実習に参加してもその度に学ぶことがあり、この

授業の履修を通して成長できました。自分たちで一から演奏会を作り上げ、音楽を届けるむずかしさ、大変さをとっても感じました。「聴き手のことを考える」のは当たり前のことなのに、今まではそんなことを考えて演奏会に出たことがない自分に気づきました。

聴き手の方々の笑顔や言葉、時に涙を流して下さる方もいて、たくさんの温かさを感じることができて、とても幸せでした。

山田 りさ (打楽器)



入学当初からアウトリーチ活動をしていましたが、この授業を受け実習を重ねることで、「訪問する場所、人を知ること」「相手のバック・グラウンドに寄り添う演出をすること」「印象に残る、いい思い出になる公演にすること」の大切さを改めて知ることができました。

他に、ソロなどでもお客さん視点でプログラムを組むようになり、演奏家になる上でも相手の視線を考えることが大切だということを実感しています。

「音楽によるアウトリーチ(講義)」履修生(三回生十五名)

ピアノ

降矢有彩、池上夏帆、金丸史奈
森口真美、中まゆり、大田淳

芹野麗、上田仁美

フルート 金木志織

ヴィオラ 増田佳子

作曲 信田亜美

声楽

荒木この美、西側江里菜

塩見友袈、高木華奈

聴講生 田中奈津紀



アウトリーチ要員紹介

谷田 奈央さん(五期生)



今年度よりアウトリーチ要員として勤務しています。

大学卒業時に同期のアウトリーチ履修生四名で音楽グループ「アンサンブルちようちよ」を結成し、これまでに二〇〇回近くの公演を行ってきました。私個人ではオーケストラの文化庁学校公演等に歌い手兼司会者として同行しており、これらの経験を活かして学生たちへアウトリーチで求められる演奏や話し方等をアドバイスしていきたいと思えます。昨年七月に長男を出産し、試行錯誤しながら周りに支えられて九月から大好きな音楽活動に復帰していますので、後輩たちにも何か参考になればと思います。

2015年度 実習歴

- 7月 4日 (土) 子どものための七夕コンサート(シリーズ第 42 回)
9月27日 (土) 第6回「音楽で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」
10月15日 (木) 神戸市立医療センター中央市民病院アウトリーチ
10月23日 (金) 兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校アウトリーチ
10月30日 (金) 国立病院機構兵庫中央病院アウトリーチ
11月13日 (金) 西宮市立鳴尾北幼稚園アウトリーチ
11月21日 (土) 野木病院アウトリーチ
12月 8日 (土) 雲雀丘学園小学校アウトリーチ
12月12日 (土) 子どものためのクリスマス・コンサート(シリーズ第 43 回)
12月15日 (水) 西宮市立門戸幼稚園アウトリーチ
2月16日 (木) 大阪市民病院機構 大阪市民立総合医療センターアウトリーチ
3月10日 (木) 国立病院機構 刀根山病院アウトリーチ

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来と比べ、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

- ♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！
- ♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月～金 10:00～15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-u.ac.jp http://www.kobe-u.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

今年の4年生は頑張り屋さん揃いで、今後の活躍が期待されます(津上)
今年も行事が盛り沢山でした。卒業生の活躍を祈っています！(寺澤)
試行錯誤の1年でした。来年度も頑張ります！！(森)
私も学ぶこと・得ることが沢山ありました。充実した1年間でした！(増田)
4月から勤務し、色々とお助けいただきながら、あっという間の1年でした！！(朝山)